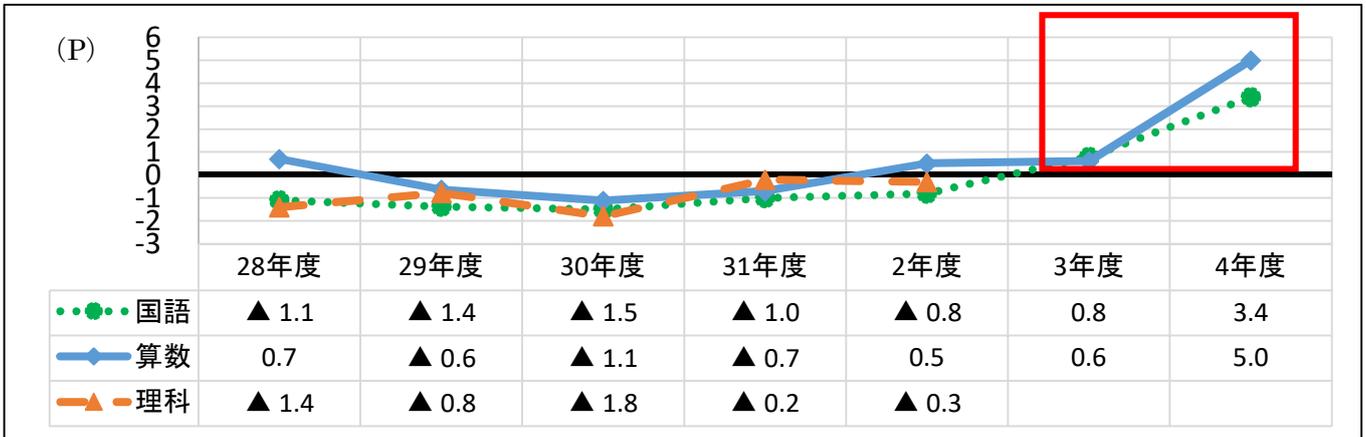


学力向上について

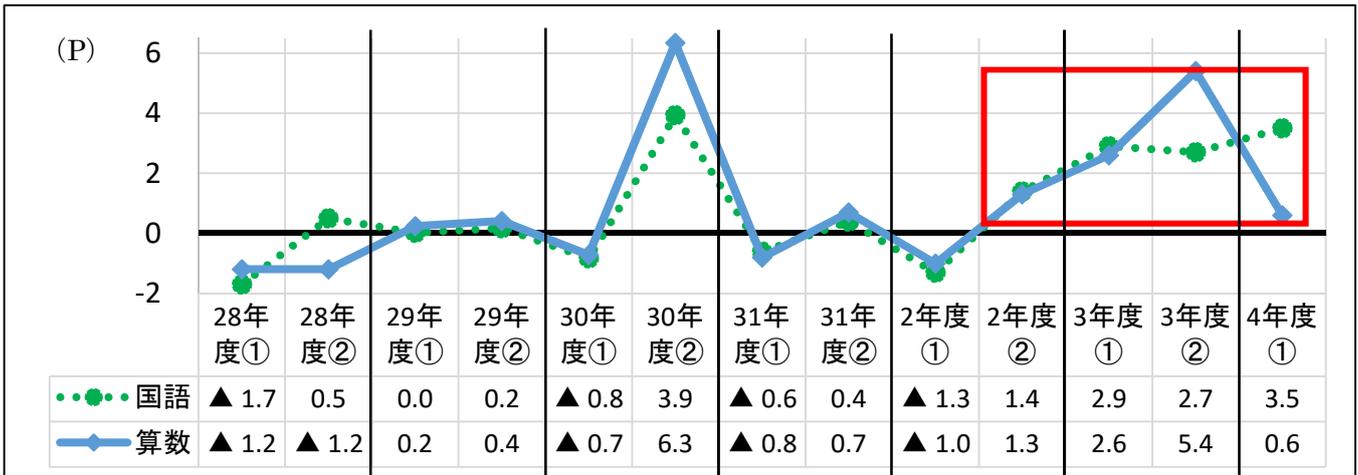
担当:教育指導課

－ 令和4年度 第1回みえスタディ・チェックの結果について －
みえスタディ・チェック 経年変化(数値は県の平均正答率との差)

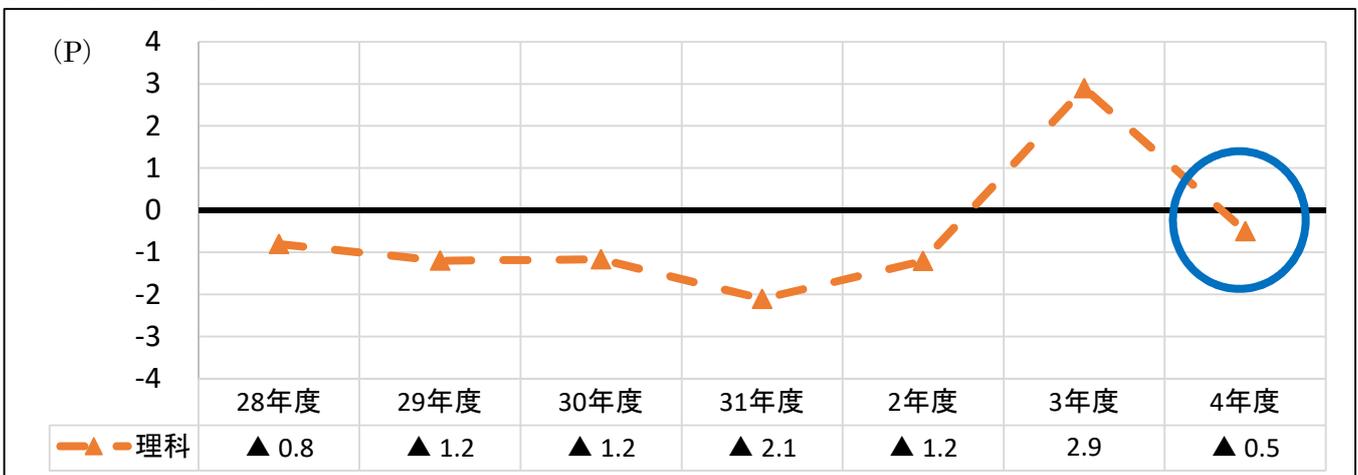
【小学校4年生】国語・算数・理科(R3, 4理科は実施なし)



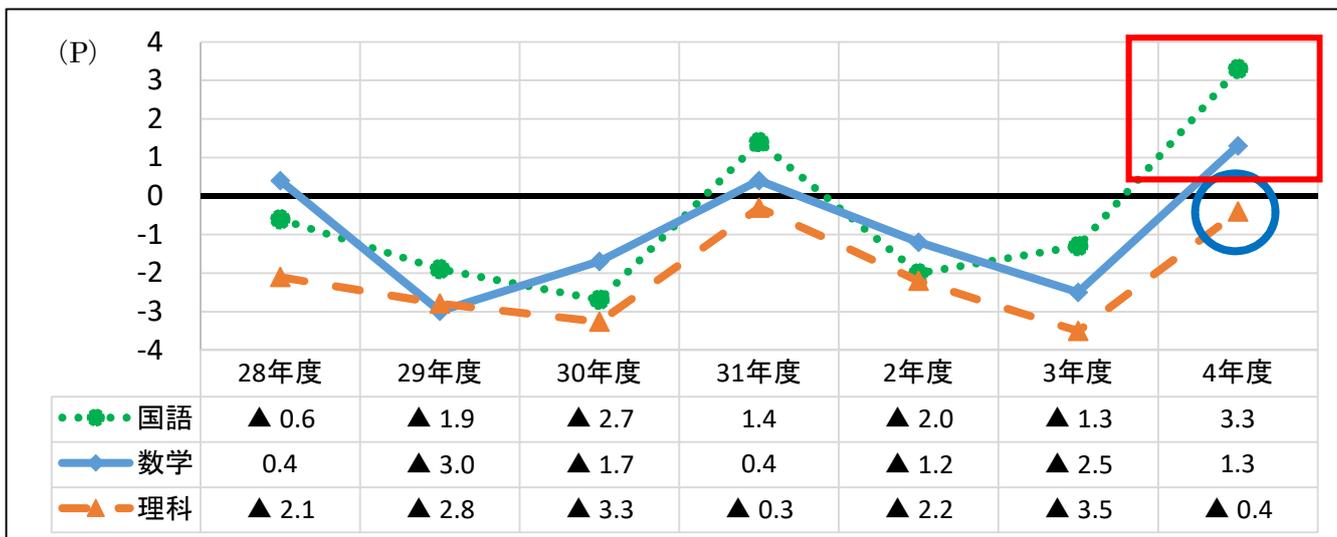
【小学校5年生】国語・算数(年2回実施)



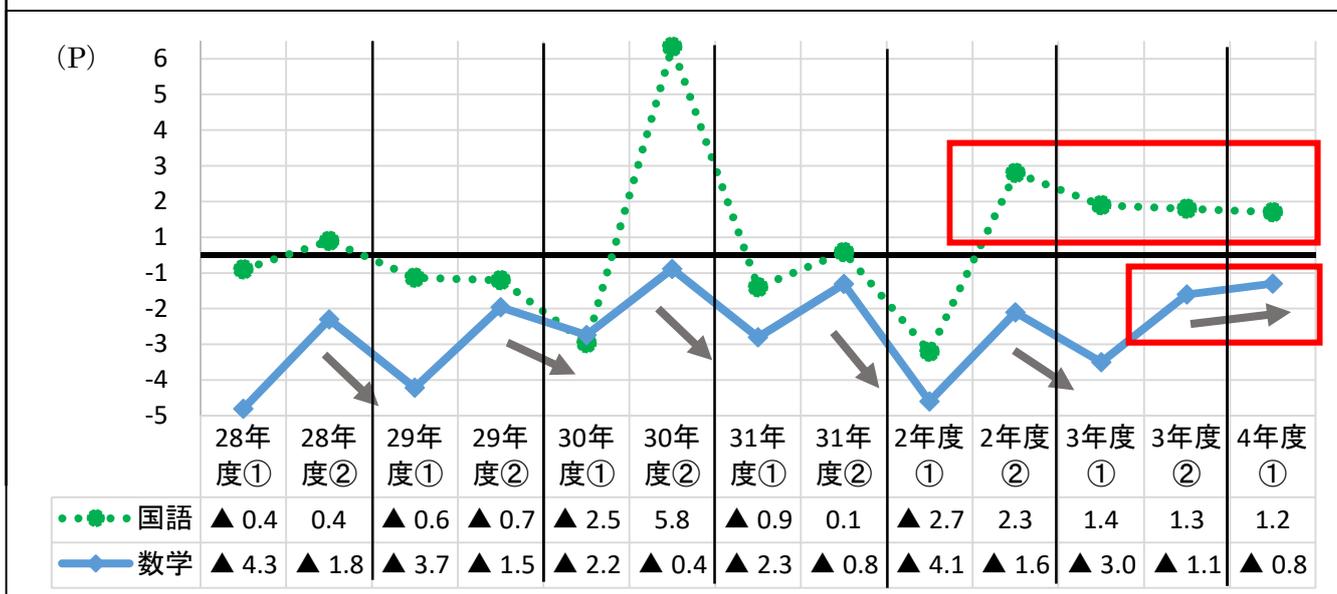
【小学校5年生】理科



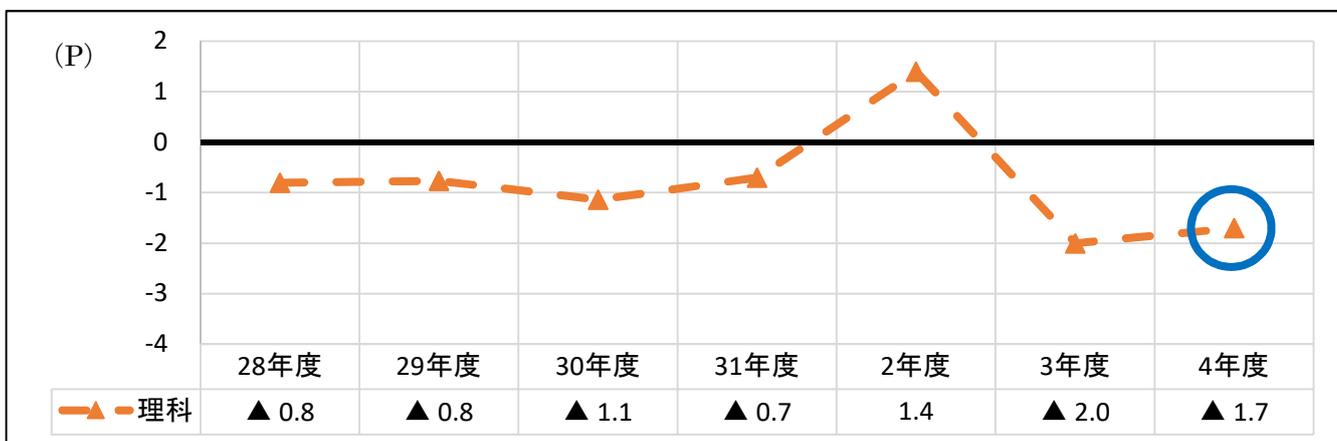
【中学校1年生】国語・数学・理科



【中学校2年生】国語・数学(年2回実施)



【中学校2年生】理科



【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査に係る自校採点結果(数値は県の平均正答率との差)

令和4年度 全国学力・学習状況調査

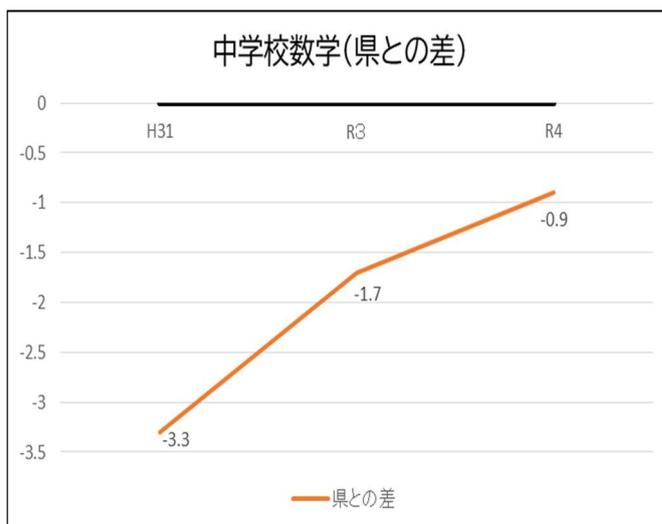
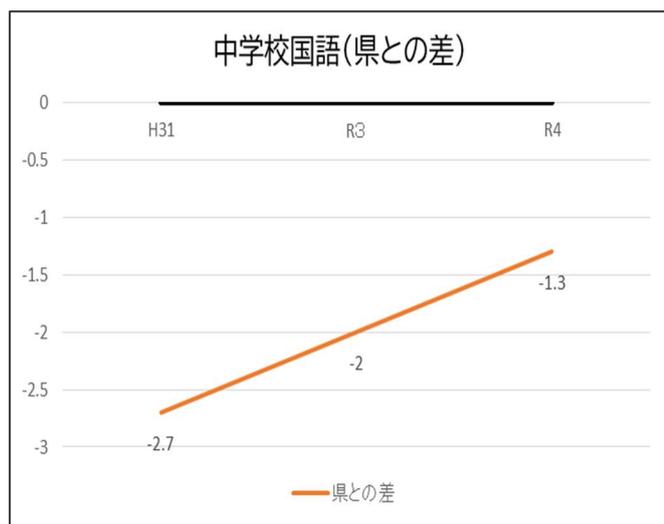
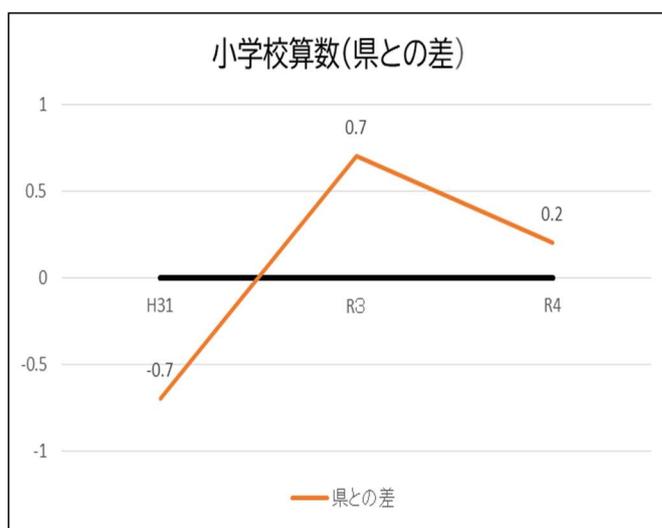
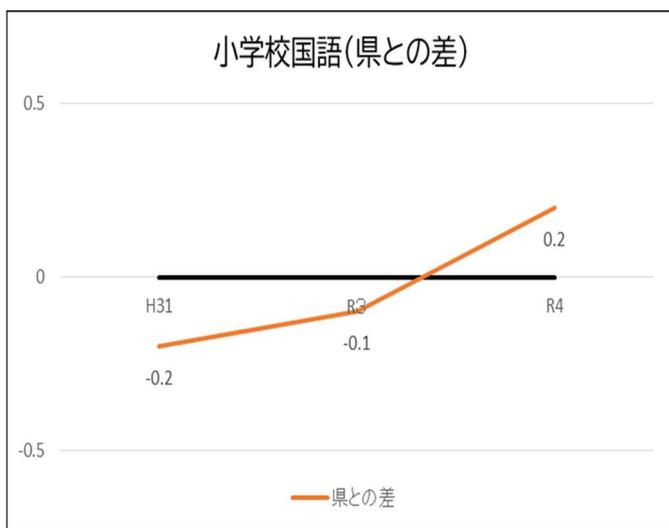
1 対象学年 小学校6年生・中学校3年生

2 自校採点 目的は、早期に児童生徒の解答状況を把握し授業改善に活かすため。

鈴鹿市は全ての学校で行っている。

県内自校採点校数 小学校 200校/350校 中学校 60校/150校

3 グラフの見方 H31, R3は国からの結果に基づく。R4は自校採点の結果に基づく。



1 成果と課題

○令和3年度から小学校では、国語、算数において市の平均正答率は県の平均正答率を上回り改善傾向がみられる。

○中学校1年生でも令和4年度は、国語、数学において市の平均正答率は県の平均正答率を上回りこれまでと比較すると大幅な改善がみられる。

○みえスタディ・チェックは、小学校5年生と中学校2年生においては年2回実施している。中学校2年生の国語においては、令和2年度②回目から市の平均正答率は県の平均正答率を上回り改善傾向がみられる。令和4年度の数学においては、市の平均正答率は県の平均正答率を下回るが、令和3年度②回目の結果よりも県の平均正答率との差を縮めることができた。前年度②回目よりも結果が良くなったのは平成28年度以降初めてのことである。

○令和4年度小学校、中学校ともに全学年の国語において、これまで課題として挙げられていた記述式の問題について市の平均正答率は県の平均正答率を上回っている。

○これまで課題に挙げられていた記述式の問題の無解答率についても、小学校、中学校ともにすべての記述式問題16問中13問で市の無解答率は県の無解答率を下回っている。

△小学校、中学校ともに理科については、すべての学年において市の平均正答率は県の平均正答率を下回っている。

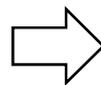
△例年課題になっている中学校2年生の数と式、図形領域の基礎基本に関わる問題について、市の平均正答率は8問中6問が県の平均正答率を下回っている。

2 今後の取組

・本市の共通重点取組として、「①学習指導要領に基づいた授業改善」「②一人一台端末の効果的な活用」「③校内研修の充実など、組織的な取組」「④中学校区の連携強化と共通取組」の4つが挙げられる。主な具体的な取組内容を以下に示す。

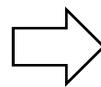
① 学習指導要領に基づいた授業改善

② 一人一台端末の効果的な活用について



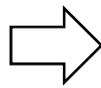
各小学校・中学校において「授業力UP 5」の活用を推進する。

③ 校内研修の充実など、組織的な取組について



各学校の授業研究に指導主事を派遣し、重点取組に基づいて助言・指導を行う。

④ 中学校区の連携強化と共通取組について



スクリーンタイムの減少と読書活動、家庭学習の充実に向けて取り組む。また、「広報すずか」にて、市民に啓発する。

- ・全中学校での組織的な授業改善のため、鳴門教育大学との連携推進を行う。
- ・学力向上プロジェクト会議を開催し、学校全体で組織的に取り組む体制づくり、来年度の全国学力・学習状況調査に向けた取組について協議する。